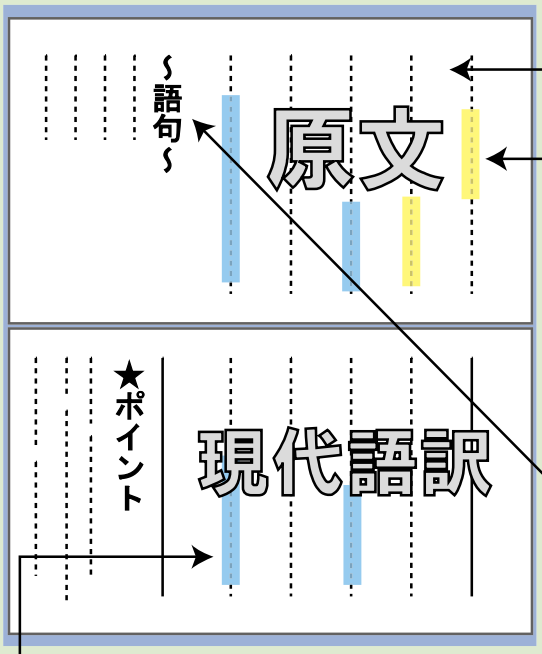
これで成績ＵＰ！

『頻出古文現代語訳』を活用した効果的な古文学習法

全訳があるからと言って、「訳を写す」だけでは力になりません。
力をつけようとするあまり、「時間をかけ過ぎてしまう」ようでも勉強がイヤになってしまいます。
そこで、「短時間」で「簡単に」できる、効果的な学習法をご紹介します！

★予習の仕方

はじめに　予習する教科書の範囲がこのサイトの中にあるか確認し、ページを開く。
（各ページには「作品のタイトル」と、「原文の書き出し（冒頭文）」が記載されています）



① 教科書のコピーをノートに貼るか、原文をノートに書き写す。

② 「現代語訳」を先に読み、あらすじを把握し内容をイメージする。

③ 教科書の「原文」を音読する。
・音読と同時に、その文がどんな訳になるかを思い浮かべる。
・読み方や訳が思い浮かばなかった「単語」や「文節」に、黄色マーカーでチェックを入れる。

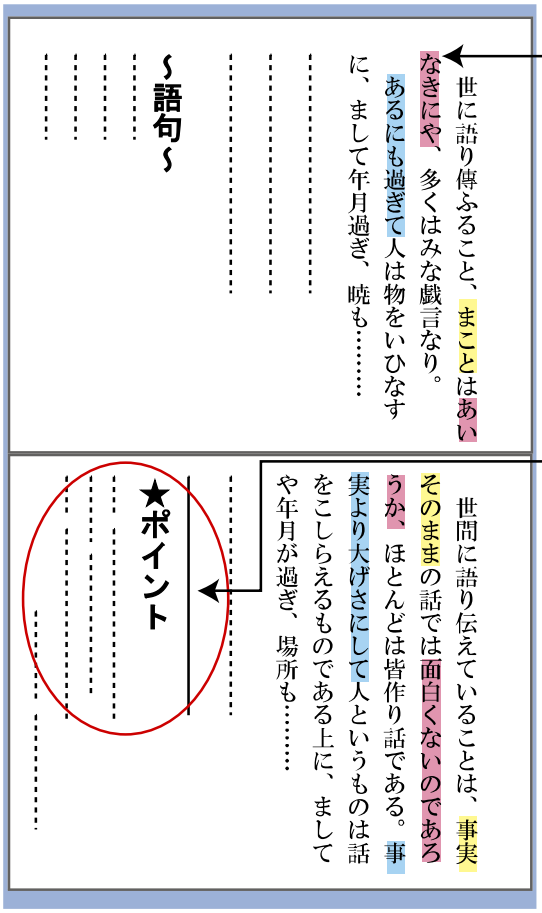
④ わからなかった「語句」をノートに書き出す。
・サイトに載っている語句は、意味を書き写す。
・サイトに載っていない語句は、辞書で調べる。

⑤ 原文を自力で訳してみる。
・わからない文は、勘で良いので書いてみる（単語の羅列でもＯＫ）。
・わからなかった文は、原文と訳に青マーカーでチェックを入れる。

重要　この、チェックを入れた所こそ！授業でしっかり勉強しなくてはいけない部分です。
これをせずに、訳を写すだけでは、実力を伸ばす勉強にはなりにくいです。

※　このチェックが出来たら、ひとまず予習は終了です。
時間の余裕があれば、サイトの「現代語訳」と照らし合わせて、訳の完成度を高めましょう。
ただし、古文は訳す人によっていろいろな解釈ができるので、予習で完成度を高めるよりも、授業中の先生の説明にそった形で勉強をする方が、テストでも良い点数が取れるはずです。
サイトの「現代語訳」は、あくまでも参考資料として活用して下さい。

★授業の受け方



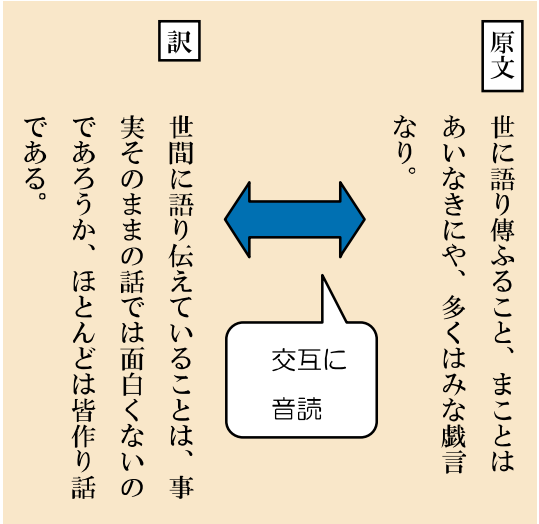
① 授業中は、自力でうまく訳せなかったところに集中し、正しい訳を書き込む。
・読み方が分からなかったところも確認し、区切りの斜線を入れたり、フリガナをふる。

② 先生が授業中にわざわざ説明した文章を、赤マーカーでチェックをする。
・先生が黒板で説明した文章だけでなく、「これ大事」と言ったところや、何度もくどくど説明したところ、なぜか声が大きくなったところなど、大事そうなところは全て赤マーカーでチェックしておく。また、ノートにもまとめておく。

重要！
この赤マークのところがテストに出やすいところです！

※ 授業が終わったら、「分からないところはない」ように、「ポイントがどこかわかる」ようにしておきましょう。

★授業の受け方



① 授業があったその日（または翌日）のうちに、1文ずつ、原文と訳を交互に音読する。
・授業で教えてもらった文法事項も確認しながら音読する。

② 原文だけを最初から最後まで音読して、訳がすらすら思い出せるか確認する。
・思い出せないところは、原文と訳を交互に音読する。
・最初から最後まで、すらすらと気持ちよく音読しながら意味が分かるようになったら復習完了。

※ 全文を音読する時間がない生徒は、授業中に先生がわざわざ説明した文章（赤マーク）や、予習でうまく訳せなかった文章（青マーク）だけを、原文と訳を照らし合わせて交互に音読しましょう。